



平成19年度 調査研究

読解力を 育成する 教科指導

■調査研究の概要

小学校

■国語

■社会

■算数

■理科

■音楽

■図画工作

■家庭

■総合的な学習の時間

平成20年3月
埼玉県立総合教育センター

平成19年度調査研究「読解力を育成する教科指導」

I 調査研究の概要

1 はじめに

OECD（経済協力開発機構）では、平成12年度より、義務教育終了段階の15歳児を対象とする国際的な学力調査「生徒の学習到達度調査」（PIISA調査：Programme for International Student Assessment）を始めた。

この調査では、義務教育終了段階の15歳児が、もっている知識や技能を実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかについて、「読解力」「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」「問題解決能力（平成15年度より実施）」の4分野にわたり、主に記述式で解答を求める問題により評価が行われている。

「読解力」（「Reading Literacy」）という言葉が登場したのは、「生徒の学習到達度調査」（PIISA調査）においてであるが、この「読解力」（「Reading Literacy」）は、我が国の国語教育等で従来用いられていた『読解』ないしは『読解力』という語の意味するところとは異なり、“PIISA型「読解力」”と呼ばれているものである。（以下「読解力」と言う。）

PIISA調査では、「読解力」について次のように定義している。

Reading literacy is understanding, using, and reflecting on written texts, in order to achieve one's goals, to develop one's knowledge and potential, and to participate in society.

「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」（「OECD版国際報告書より」）

平成15年度実施の同調査結果では、我が国の子どもたちの「読解力」の得点が、OECD平均程度まで低下している状況にあることが示された。この結果を踏まえ文部科学省では、平成17年に「読解力向上プログラム」及び「読解力向上に関する指導資料～PIISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向～」を取りまとめ、各学校での取組を求めている。

さらに、埼玉県が独自に実施した平成18年度小・中学校学習状況調査でも、「読解力」に課題があることが明らかとなっている。小学校5年国語の、海底において「ゆっくり体をくねらせている。」のは、何の様子を表しているのかという、場面の描写を味わいながら読む文学的文章の読み取りでは、正答の「こんぶ」を選択することのできた児童は48.3%であった。また社会でも、資料をみて日本の主な食料の自給率を読み取るという問題において、正答率は54.1%にとどまるという結果が出ている。これらのことは、PIISA調査の読解力でも課題として挙げられた、書かれた情報から推論して意味を理解する「テキストの解釈」、書かれた情報を自らの知識や経験に位置付ける「熟考・評価」を子どもたちが苦手に行っているということであり、資料の読み取りの過程において、「読解力」が大きな課題となっていることを示している。

こうした中、学習指導要領の改訂に向けて、平成19年11月に中央教育審議会初等中等

教育分科会教育課程部会より「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」が出された。その中で子どもたちの学力について、「各種調査の結果からは、基礎的・基本的な知識技能の習得については、(中略)一定の成果が認められる。しかし、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題に課題がある。」と分析し、「これらの力は現行学習指導要領が重視し、子どもたちが社会において必要とされる力であることから、大きな課題であると言わざるを得ない。」と「読解力」育成の必要性を強調している。

そこで、当センターでは、今年度と来年度の2か年にわたって、「読解力」を育成する教科指導の在り方について、各教科領域において調査研究を行い、これからの時代に求められる学力を育成する授業展開の指針を示すこととした。

2 研究の目的

本調査研究の目的は、各学校での「読解力」育成の取組を推進するために、各教科領域において、読解力を育成する指導方法について調査研究を進め、児童生徒の読解力を育成する授業の在り方を具体的に提案していくことである。

3 研究の内容

- (1) 読解力を育成するための指導方法の工夫について
- (2) 読解力を育成するための指導事例・モデルプランの開発について
- (3) 実践授業を通しての読解力育成の検証について

4 研究計画

平成19・20年度の2年間の調査研究とし、研究協力委員を委嘱し、所員と協力して調査研究を行う。

【平成19年度 小学校】

国語、社会、算数、理科、音楽、図工、家庭、総合的な学習の時間

【平成20年度 中学校】

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、外国語

<平成19年度>

回	開催期日	内 容
第1回	5/18(金)	・委嘱状交付 ・全体会(趣旨説明) ・講話「読解力を育成する教科指導」文教大学教授 嶋野道弘先生 ・教科別会議(研究内容及び方向性、日程等確認)
第2回	6月	・協力委員の学校における研究の方向性の確認、授業者の決定
第3回	8月	・協力委員の学校における研究の経過報告 ・検証授業における学習指導案の検討
第4回	10月～ 11月	・会場校研修(検証授業) ・授業に関する協議、課題と成果の明確化
第5回	12月	・研究のまとめ、報告書の分担、作成
	1月	・報告書の完成
	3月	・報告書のセンターHP掲載

5 研究協力委員

教科等	市町村	学 校 名	職名	氏 名	担当 所員
国 語	上尾市	富士見小学校	教諭	半谷 忠彦	宮坂郡一
	飯能市	南高麗小学校	教諭	福島 明美	
	深谷市	藤沢小学校	教諭	染谷 絹子	
	三郷市	鷹野小学校	教諭	垣谷 容子	
社 会	戸田市	美女木小学校	教諭	谷口 篤志	吉澤達也
	行田市	南小学校	教諭	今成 健	
	深谷市	幡羅小学校	教諭	中島 幹夫	
	越谷市	荻島小学校	教諭	佐々木 清	
算 数	新座市	片山小学校	教諭	岡部 英一	樋口哲男
	所沢市	椿峰小学校	教諭	中村 啓	
	熊谷市	熊谷東小学校	教諭	常木 誠司	
	春日部市	立野小学校	教諭	深堀 由香	
理 科	熊谷市	熊谷西小学校	教諭	田中 尚子	川音孝夫
	春日部市	上沖小学校	教諭	川合 厚	
	行田市	東小学校	教諭	増田 雄一	
	日高市	高根小学校	教諭	内山 直樹	
音 楽	川越市	仙波小学校	教諭	中山 尊之	小熊利明
	春日部市	桜川小学校	教諭	羽生田 麻子	
	熊谷市	奈良小学校	教諭	増田 和江	
	東松山市	新宿小学校	教諭	長澤 久美恵	
図画工作	ふじみ野市	亀久保小学校	教諭	星 真弘	武藤篤美
	羽生市	新郷第一小学校	教諭	田高 一洋	
	新座市	西堀小学校	教諭	原 奈穂子	
	戸田市	笹目東小学校	教諭	佐藤 直子	
家 庭	鴻巣市	鴻巣南小学校	教諭	芳川 りえ	榎原久子
	嵐山町	志賀小学校	教諭	池田 智恵子	
	深谷市	桜ヶ丘小学校	教諭	神山 や寿子	
	蓮田市	蓮田南小学校	教諭	宮澤 泉	
総 合	北本市	石戸小学校	教諭	市川 篤史	小川聖子
	入間市	西武小学校	教諭	渡邊 重樹	
	越谷市	城ノ上小学校	教諭	酒井 豊子	
	幸手市	行幸小学校	教諭	坂本 信之	

6 参考・引用文献

- (1) PISA 2003年調査 評価の枠組み－OECD生徒の学習到達度調査－
国立教育政策研究所監訳 ぎょうせい 平成16年5月
- (2) 生きるための知識と技能2－OECD生徒の学習到達度調査(PISA)2003年調査国際結果報告書－
国立教育政策研究所編 ぎょうせい 平成16年12月
- (3) 読解力向上に関する指導資料 文部科学省 平成17年12月
- (4) 読解力向上プログラム 文部科学省 平成17年12月
- (5) 初等教育資料 文部科学省 平成18年5・6・7月号
- (6) 読解力向上をめざした授業づくり－低学年・中学年・高学年－
井上一郎・安野功・吉川成夫・日置光久・田村学編著 東洋館出版社 平成18年8月
- (7) 平成18年度埼玉県小・中学校学習状況調査報告書 埼玉県教育委員会 平成19年7月
- (8) 教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ
中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 平成19年11月